

## SNSの闇

東栄小学校6年  
池田 一生

ぼくの一番身近な犯罪といえば、SNSが挙げられる。インスタグラムは、きれいな写真や動画で世界とつながることができるアプリだ。正しく使えばとてもおもしろいアプリだ。しかしその反面、知らない人からとつぜん、多額のお金を請求する詐欺のようなメッセージが届くことがある。また、時には人の写真にバカなどの悪口が書き込まれていることがある。バカと書いた人はちょっとしたイタズラの気持ちかもしれないが、書かれた方はどう思うだろうか。傷つきはしないだろうか。SNSは本当に身近にあるが何が起こるか分からないこわい場所だと思う。日常生活では警察が守ってくれるがネット上では守ってくれる人はいない。最近SNSについて考えたことを二つ書こうと思う。一つ目は、少し前、タレントのりゅうちえるさんが亡くなったことだ。ツイッターを中心とする誹謗中傷にたえられず、自殺してしまった。ツイッターでは「ブス！死ぬ！」というコメントがあり、それに対してりゅうちえるさんは「ぼくは可愛いし、生きてます」と返信している。りゅうちえるさんはどれほど心が傷ついたことだろう。メッセージだけでは伝わりにくい心を痛めながら返信したのだとぼくは思う。そういう人の気持ちを考えない人が調子に乗って誹謗中傷をくり返し、りゅうちえるさんを死に追い込んだのだと思う。もっと早く誰かが気がついたら、助けることができたのだろうか。りゅうちえるさんが性的少数者だったからと言ってSNSで悪口を言っている理由にはならない。ぼくはドイツの性的少数者の人に会ったことがあるが、ふつうの人と何一つ変わらなかった。りゅうちえるさんを誹謗中傷した人は、りゅうちえるさんが性的少数者であること以外、彼の何を知っていたのだろうか。りゅうちえるさんが自殺した後、証拠隠滅のためメッセージを消

した人がいる。だがデジタルタトゥーという言葉があり、一度世界に流出したものを完全に消すことはできない。どうせ消すぐらいだったら最初から悪口を伝えなければいいと思う。悪口を言われてうれしい人はこの世にいない。二つ目は最近見たリトルマーメイドという映画だ。主人公のアリエルはアニメでは白い肌、赤い髪でえがかれているが、映画では黒人である。それに対してSNSでは、「こんなの私のアリエルではない」、「黒い肌のアリエルなんて変」と言った誹謗中傷があふれていた。ツイッターでは#NotMyArielというハッシュタグが一気に広がった。これもりゅうちえるさんの問題と似ている。性的少数者、黒人、なぜそれだけの理由で、SNSで非難されたり、批判されたりするのだろうか。世の中は多様性を認めているのに、SNSの世界は全く逆だ。日本国憲法では基本的人権を尊重することがうたわれているが、現実とは全然そうじゃない。他人を誹謗中傷する人は、自分の人生に満足していないのではないだろうか。人をけ落とすことで、自分の人生を明るくみせているつもりかもしれない。でもそれはまちがっているとぼくは思う。人生は自分の力でしか明るくすることはできない。これはぼくの担任の先生が言ったことだが「差別したら、自分も差別される」ということだ。差別されたり、悪口を言われたりしてうれしい人なんていない。人にはそれぞれいいところや悪いところがある。だが、それをマイナスにとらえて誹謗中傷し合うのではなく、プラスにとらえてお互い多様性を認め合いませんか。